

508名の新入生を迎えて 2005年度入学式

4月8日(金)、第44回入学式が行われた。新入生は、経済学科240名(うち留学生2名)、国際商学科249名(うち留学生10名)、編入学生10名(経済学科6名、国際商学科4名)、大学院9名(経済社会システム専攻3名、国際ビジネスコミュニケーション6名)である。このほか、5名の交換留学生(青島大学2名、東義大学2名、クイーンズランド大学1名)と5名の外国人科目等履修生(トルコ1名、タイ1名、中国3名)が出席した。

式では、堀内学長が「大学とは学びの場。東アジアに開かれたこの下関の地で、過去の歴史に学びつつ、未来を開く学問を身につけてほしい」と激励のメッセージをおくった。江島潔下関市長など来賓の祝辞に続いて、学部新入生を代表して経済学科の雪村美歌さん、学部留学生を代表して国際商学科の王君くん、交換留学生を代表して金智賢くん(東義大学2年)、科目等履修生を代表してティエラワット・エムディ君(タイ商工会議所大学4年)、大学院生を代表して寺西玄一さんが誓いの言葉を述べた。また、著書『中世初期の所領経済と市場』によって学会の高い評価を受けた丹下栄教授に、同窓会より研究奨励賞が贈られた。

吹奏楽部の演奏と応援団のエールによって式が終了すると、会場の外で待ちかまえていた大勢の在学生が、クラブ・サークルへの勧誘活動を繰り広げた。今年度は、入学式後に初めて保護者説明会が開催され、約300名の保護者が学生生活、授業、就職状況などの説明に熱心に耳を傾けていた。

多彩に、新入生歓迎行事



今年も大勢の新入生を迎えるため、各学生団体によって、様々な歓迎行事が行われた。入学式前日の7日には、生協学生委員会がミニ講義、食堂体験などを

内容とする「新入生歓迎の集い」を行った。9日には、中央委員会が、新入生の顔合わせをかねて、第一外国語のクラス毎に「クラスオリエンテーション」を、11日には、大学祭実行委員会が今年初めての試みとして、「さくらまつり」を行った。ほとんどすべてのサークルが参加し、新入生はサークル紹介のパンフレットを手にしながら、シート毎に陣取った各サークルを巡っていた。このほか16日に、関門海峡クルージング(定員100名)が行われた。



公立大学協会図書館協議会の総会を開催

2005年5月26日(木)、27日(金)の両日、下関市内の海峡メッセにおいて、公立大学協会図書館協議会の総会が開催され、釧路公立大学、沖縄県立看護大学をはじめ、全国68公立大学から図書館長、事務局長など106名が参加した。今年度は、山口県立大学が協議会会長、本学が総会開催を引き受けている。

この図書館協議会は、全国73公立大学(2005年4月1日現在)の附属図書館を会員とし、公立大学図書館相互の連携を図るとともに、国との交渉、国公立大学図書館の相互協力のほか、調査研究や職員研修会などを行っている。近年では、コンソーシアムによって電子ジャーナルの割安な購読を実現している。(図書館長 西田雅弘)





2004年度卒業式

2004年3月25日(金)、第40回卒業式が行われ、経済学科240名(総代・草野祥子さん)、国際商学科246名(総代・上吉川純恵さん)に学士学位記が授与された。大学院は、第6回目の修了者となるが、経済社会システム専攻3名、国際ビジネスコミュニケーション専攻6名の計9名(総代・孫達明君)に修士学位記が授与された。堀内学長、山村重彰・下関市長職務執行者職務代理者などが祝いと激励の言葉を述べたあと、学部卒業生を代表して経済学科の石津和美さん、留学生を代表して林政芳君、大学院生を代表して高田倫子さんが、出発(たびだち)の言葉を述べた。また、「赤間賞」が経済学科の立石知慶君と田中健作君に授与され、国際商学科の穴田晃平君が後援会表彰を受けたほか、本学非常勤講師を長年務められた李海珠先生に同窓会から大学新興賞が授与された。卒業式に続いて、海峡メッセのホールで卒業祝賀パーティが行われた。

大学院の修士号11名に授与

2004年度は春学期に2名、秋学期に9名の修了者を見、3月21日に修士論文発表会を開催した。2000年度開設以来、これまでに34名、専攻別では経済社会システム専攻15名、国際ビジネスコミュニケーション専攻19名、年度別では2001年度10名、2002年度2名、2003年度11名、2004年度11名が修士号を取得したことになる。今年度のタイトルは以下の通りであり、それぞれ教育(日本語講師)、研究(博士課程進学)、ビジネス界に巣立っていった。

◎経済社会システム専攻

- ・スポーツによる地域振興に関する研究(9月修了)
- ・自然災害と地方公共団体の責務—阪神大震災を事例として—
- ・長良川流域の人々の川とのかかわりの変遷に関する研究
- ・中世から近世移行期の銭貨流通—九州における考古資料を中心に—

◎国際ビジネスコミュニケーション専攻

- ・中国・ハイアール集団の成長戦略の一考察—各発展段階における経営戦略の視点から—(9月修了)
- ・韓国児童養育施設における自立支援機能の研究
- ・専門高校(特に商業高等学校)におけるビジネス英語のコミュニケーション能力育成
- ・ソリューションビジネスのための主成功要件—ソリューションベンダーの役割と顧客との最適な関係とは—
- ・大連経済技術開発区の現状と展望
- ・対馬・朝鮮関係の歴史的変遷
- ・“把”構文の成立に関する動詞の分類—日中対照研究の立場から—(大学院研究科長 木村健二)

就職状況

平成17年3月末の就職内定率は男子93.4%、女子95.4%、全体で94.2%であった。これは、過去10年間で一番高く、前年度実績と比較すれば、男子で2.5ポイント、女子で6.0ポイント、全体で3.8ポイント伸びている。男子の内定率は前年に引き続いて伸び、女子の内定率にあっては、大幅な上昇に転じている。大学院進学者は、本学大学院を含め、14名であった。その他に、留学や専門学校(公務員など)に入学する者が目立って多くなってきている。なお、近隣の大学における就職内定率に比べ、本学の就職内定率はかなり高く、就職実績として高く評価される。

◎平成17年度採用環境

平成17年度は、日本の景気が回復傾向にあるといわれる中、雇用環境は、市町村公務員の採用をはじめ依然として厳しい。就職協定廃止後9年目を迎えて、採用活動の自由化(採用活動時期・内定時期・採用方法)が一層すすみ、採用活動の前倒し傾向が強まっている。企業の採用活動方法は、合同説明会、大学への求人情報やインターネット等、多様だが、特色としては、有能な即戦力を求める傾向が強まり、通年・中途採用を実施する企業が増加したことや、企業が人材を選別する目は一層厳しくなっていることがあげられる。また、企業概要をHPに載せるだけでなく、エントリーシートの請求やエントリーそのものをネット上で受け付けるなど、インターネットを採用活動に使用する企業が益々増加している。

◎平成17年度就職委員

就職委員長	佐々由宇 教授
就職副委員長	濱田英嗣 教授
就職委員	西戸隆義 助教授
就職委員	小笠原正志 助教授
就職委員	鈴木陽一 助教授
就職委員	関野秀明 講師
就職委員	植田泰史 事務局長
就職委員	田島文子 次長補佐
就職委員	吉瀬行彦 学生部主事
就職委員	中野武志 就職相談室長
就職委員	堂下邦江 就職相談員

内山浩道教授最終講義



1月19日(水)、223番教室で学会主催によって、内山浩道教授の最終講義が行われた。教室を埋めた学生・教職員・市民は日本語

と翻訳文の比較対象を通じて、日本語表現のある種の曖昧さを浮き彫りにした内山教授の講義に興味深く耳を傾けていた。内山教授は、オーストラリアのクィーンズランド大学とグリフィス大学で教鞭をとられてのち、1995年に本学に着任された。本学では、おもに留学生のための日本語教育を担当されたほか、オーストラリアの両大学との提携に尽力されるなど、豊富な国際経験を生かして本学の国際交流に多大な貢献をされた。

入試状況

2005年度の入試では、例年通り、推薦入学、特別選抜、一般選抜、3年次編入学並びに大学院入試が実施された。志願者数、入学者数、合格者出身校等は以下の表に示す通りである。

2005年度入試状況

		学 科 (募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質 倍率
一般選抜	前期日程	経 済 (60)	311	287	85	70	3.4
		国際商 (60)	153	136	95	72	1.4
	公立大学中期日程 (旧C日程)	経 済 (96)	1,336	810	322	103	2.5
		国際商 (96)	1,531	824	294	101	2.8
推薦入学	全 国	経 済 (31)	102	102	31	31	3.3
		国際商 (31)	73	73	31	31	2.4
	地 域	経 済 (33)	43	43	33	33	1.3
		国際商 (33)	47	47	33	33	1.4
特別選抜	帰国子女、社会人、 中国引揚者等子女	経 済 (5)	2	2	1	1	2.0
		国際商 (5)	3	3	2	2	1.5
	外国人留学生	経 済(若干名)	14	14	4	2	3.5
		国際商(若干名)	45	43	14	10	3.1
編入学 大学院	経 済 学 科	(10)	18	17	9	7	1.9
	国 際 商 学 科	(10)	22	20	4	4	5.0
	経済社会システム専攻	(5)	3	3	3	3	1.0
	国際ビジネスコミュニ ケーション専攻	(5)	8	7	6	6	1.2

2005年度合格者出身校

[岩手] 一関第一 [茨城] 竹園 [栃木] 大田原 [埼玉] 所沢北 [新潟] 高田、新潟北 [富山] 高岡第一 [石川] 小松、金沢、鹿西 [福井] 高志、大野、勝山、丹生、丸岡、武生東 [長野] 野沢北 [岐阜] 岐阜北 [静岡] 沼津東、静岡城北、静岡東、静岡市立2、星陵、静岡学園2、藤枝明誠 [愛知] 一宮北、横須賀、天白、西春、豊田南4、半田東、東海、愛知啓成、星城、春日丘2 [三重] 四日市南、神戸、松阪、上野、川越2、セントヨゼフ女子学園 [滋賀] 八日市2、水口東3、虎姫、草津東2、玉川、光泉 [京都] 桃山、福知山、宮津、峰山、堀川、日吉ヶ丘、花園2、京都成章 [大阪] 摂津、市岡、枚方、開明、明星2、浪速、大阪薫英女学院、関西大倉、初芝富田林3 [兵庫] 御影2、兵庫、夢野台、鈴蘭台、星陵、神戸商業(県立)2、西宮北、猪名川、有馬、柏原、明石北、松陽、西脇2、北条2、三木3、姫路東10、姫路西、姫路南、福崎2、赤穂2、姫路商業、豊岡2、生野、西宮東、明石清水2、須磨友が丘、川西北陵2、姫路飾西、北摂三田、姫路工業大学附属、三田祥雲館、六甲、賢明女子学院、近畿大学附属豊岡、滝川第二 [奈良] 智辯学園3 [和歌山] 向陽、桐蔭、海南、耐久、日高、古座、開智7、近畿大学附属和歌山 [鳥取] 鳥取東2、鳥取西7、八頭2、倉吉東5、境 [島根] 安来、松江北2、松江南5、横田、平田2、出雲4、川本、江津、浜田8、益田2、津和野、隠岐、松江東2 [岡山] 岡山操山2、岡山大安寺2、岡山芳泉7、倉敷青陵2、倉敷天城7、倉敷南6、津山3、津山東、玉野2、玉島(県立)、笠岡4、西大寺、総社2、高梁2、瀬戸2、邑久、矢掛2、落合、林野、岡山一宮4、倉敷古城池6、玉野光南、総社南、岡山城東2、就実2、関西、岡山理科大学附属、岡山学芸館、岡山白陵 [広島] 広島大学附属福山2、広島国泰寺5、広島皆実2、海田、廿日市5、賀茂5、安古市5、広3、呉宮原3、呉三津田3、尾道北4、三原3、世羅、福山誠之館10、府中3、大門2、舟入2、基町3、広島井口2、廿日市西、祇園北2、沼田2、安芸南、美鈴が丘3、因島、広陵、安田女子3、広島女学院、ノートルダム清心、鈴峯女子、山陽女学園高等部2、広島県新庄3、広島学院、広島工業大学附属広島、広島桜が丘、清水ヶ丘、盈進、近畿大学附属福山、如水館、近畿大学附属東広島2、[山

口] 安下庄、岩国2、柳井、光2、徳山2、防府6、防府商業、山口2、山口中央5、宇部2、宇部中央、小野田3、厚狭5、大嶺2、田部6、西市、豊浦9、長府9、下関西2、下関南9、下関第一6、下関中央工業3、下関工業、豊北2、大津、萩、下関商業12、防府西、新南陽、響、西京2、高水4、誠英、野田学園、宇部フロンティア大学付属香川3、サビエル、梅光女学院6、早鞆2 [徳島] 城東、城南、城北、富岡東2、名西、脇町3、池田、徳島市立、城ノ内

[香川] 高松商業、丸亀、善通寺第一、高松北3、香川県大手前、香川誠陵2 [愛媛] 西条2、今治西4、今治南、伯方、松山西、松山北、松山商業2、八幡浜2、宇和島東、南宇和、松山中央 [高知] 高知道手前2、土佐、高知学芸2、土佐塾2 [福岡] 豊津6、京都3、門司5、大里2、小倉南3、小倉6、小倉西7、戸畑10、八幡11、八幡中央、八幡南2、東筑、宗像2、新宮4、香椎、福岡、福岡中央、城南3、修猷館、明善、伝習館、三池3、八女3、浮羽、朝倉、朝倉東、田川5、東鷹、嘉穂17、嘉穂東、鞍手5、戸畑商業2、北筑14、小倉東4、光陵2、玄洋、小郡5、香住丘4、早良、玄界、高陵2、鎮西敬愛5、東筑紫学園2、美萩野女子、明治学園、九州国際大学付属6、福岡大学附属大濠、筑紫女学園、東福岡、福岡工業大学附属城東3、久留米工業大学附属2、西日本短期大学附属 [佐賀] 佐賀西2、佐賀北、佐賀東、唐津東3、伊万里5、小城3、武雄2、鹿島3、鳥栖5、白石4、致遠館4、佐賀清和 [長崎] 長崎東、長崎西2、長崎南3、長崎北3、佐世保南4、佐世保西、大村3、諫早4、猶興館2、五島5、対馬2、長崎商業2、長崎北陽台4、西陵、長崎南山4、長崎日本大学2 [熊本] 済々黉、熊本、第一2、第二2、熊本西2、熊本工業、熊本商業、玉名3、矢部2、宇土5、八代2、人吉、天草4、熊本北3、東稜3、九州学院、ルーテル学院、文徳4 [大分] 高田2、杵築2、別府鶴見丘3、別府青山、大分上野丘4、大分舞鶴8、大分雄城台、大分鶴崎2、臼杵、佐伯鶴城、三重、日田、中津南4、中津北3、大分南、大分豊府8、昭和学園 [宮崎] 高千穂、高鍋2、宮崎西、日南3、福島、都城泉ヶ丘2、都城西2、小林、鵬翔12、宮崎第一、日向学院2 [鹿児島] 鹿児島工業高専、鶴丸2、甲南2、鹿児島中央、指宿2、川辺、伊集院3、川内3、大口、加治木2、岩川、志布志、鹿屋6、大島2、鹿児島玉龍4、松陽、武岡台3、鹿児島、鹿児島第一、尚志館 [大検] 2

27人の留学生が入学



今年度、27人の留学生を新たに迎えた。学部留学生が12人(中国11人、韓国1人)、姉妹校からの派遣学生が5人(青島大学2人、東義大学2人、クィーンズランド大学1人)、科目等履修生が5人(トルコ1人、タイ1人、中国3人)、大学院が5人(中国)である。4月28日(木)、厚生会館1階食堂で、「国際交流会ともだち」の主催によって、盛大に歓迎会が行われた。

卒業論文合同報告会、学生の手で



2月19日(土)、本学の2教室を使用して、'04年度卒業論文合同報告会が開催された。川本・木村・関野・吉津・堀内・道盛の5ゼミから合計31名の4年生が卒業研究の成果を披露し、質疑応答に臨んだ。2教室合計の来場者数は、150名近くにのぼった。約

10名の市民の来場も記録されている。

報告者数の多少を問うとすれば、過去実績に比べて上々とはいえない。しかしながら、今年度の報告会は、過去のそれとは決定的に異なるものであった。学生諸君の自主企画、自主運営だったからである。私が合同報告会の開催を専門演習担当者全員に呼びかけ、運営し始めて数年が経つ。学生の自主運営で開催してこそ意味あり、ゼミ連合の再生目指せ、と言いつづけてきた者として、感慨深いものがある。わがゼミの4年生が私の挑発に乗ってくれて、3年生ゼミテンの合意を取り付け、他のゼミに働きかけをし、実行委員会を組織して動かした。自身の卒業研究と格闘しながら、彼らは精一杯の力を発揮してみごとにやりとげてくれた。

各ゼミから選出された、3年生、4年生合同の実行委員会は、数回にわたる会合を重ねて、企画を練り、広報体制を整え、プログラム編成に知恵をしぼった。報告会当日の運営は、川本・関野・田中・道盛・吉津ゼミの、48名にのぼる3年生が担ってくれた。報告レジュメ集が編集され、会場配布された。こうした、彼ら彼女らの取り組みは、見事に実った。報告会は教員による講評で締めくくられたが、2会場の講評が期せずして一致したことからも、その実りがいかに豊かなものであったかが推し量られる。自分たちが勉強する場を自分たちで創るというもっとも大学らしい場になった、学生自身が運営全般に責任を負ったことで報告内容の水準も上がった、と両会場の講評は指摘している。

この度の取り組みは確実に引き継がれている。会場アンケートの結果も踏まえて、現4年生が反省会を重ね、今年度の実行委員会立ち上げにすでに動き出している。期して待ちたい。

最後に、実行委員会の熱意が教職員の協力を引き出したことに触れておきたい。学部教務の全面的な支援をえられたし、大学ホームページでの広報も許された。事務局・庶務が問合せ窓口を引き受けてくださった。関係者各位に、心から御礼申し上げたい。(道盛誠一)

共同自主研究、16年度は3件

16年度、学生による「共同自主研究」として単位認定された成果は、次の3件であった。

「下関昭和館を辿って一証言をもとにその役割を見直す」(3年、1名)、「ゼロエミ・スローフード店づくりの提案」(2年、4名の共同研究)、「宮崎駿の作品にみるエコ・メッセージ」(2年、5名の共同研究)。今年度は、もっと件数が増えることが期待される。

坂本ゼミ、「下関環境みらい館」で卒業研究発表会

2月16日の午前と午後、大学からは比較的近い場所、垢田の辻の先にある「しものせき環境みらい館」啓発棟3階研修室で、「都市・地域・まちづくり環境」についての公開論文発表会と題して、学生の卒研発表会を開催した。ゼミで主に環境問題への対応策を扱っている学生たちの研究内容が、実際にどれほど役立つものか。市民はどう受け止め、どんな評価を下すだろう。市民からさまざまな質問を受けた時、学生たちはどのように答えられるだろう。期待も不安も入り混じっていた。が、互いに刺激し合えばきっと有意義であるに違いない、と考えての初の試みだった。

パワーポイントを使っただけの発表は、企業・行政の環境への取り組みや自然とのかかわりなどをテーマに、卒業生の分が15件、修士論文と2年生の共同自主研究各1件の計17件。

ゼミ生や共同自主研究参加者、市大教員、環境部の市職員、および、啓発棟の運営に携わっているNPOのスタッフ併せて40数名の外は、宣伝があまり行き届かず、一般市民の参加は数名しかなかった。それでも、情報提供や市民参加・協働のあり方、かかわり方等について、会場内で相互に討論し合うことができ、充実した思い出深い発表会となった。緊張しながら発表した学生たちはむしろ励まされていた。今後も学外での市民向け発表会を続けて行きたい。

(坂本紘二)



「関門地域共同研究会の成果報告書」が刊行

産業文化研究所と、北九州市立大学・産業社会研究所との共同研究事業である「関門地域共同研究会」は発足して10年を越えるに至ったが、その2004年度の成果報告書、『関門地域研究』第14号がこのたび刊行された。内容は「関門地域の国際(インバウンド)観光振興—中国編—」と「関門地域のベンチャー企業創出・育成に向けた調査研究」の二部構成となっている。本学教員による論稿としては、次の3つを収録している。

- ・山本興治「中国人訪日観光旅行分析—中国現地での旅行会社ヒアリング調査を中心に—」
- ・高嶋正晴「中国・山東省からの関門地域・山口県への団体観光誘致事業について—下関市と山口県の取り組みを中心に—」
- ・堀内隆治「関門地域における福祉用具産業の展開可能性—ケアマネージャー、ユーザーへのアンケートを中心に—」(関野潔枝・永田和代との共著)

その他、8つの論稿を収録し、総ページ数はこれまででもっとも多い262ページの大冊となった。

7月27日(水)、北九州市で成果報告発表会が開催される(詳細は、<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/sanbunken>に掲載予定、報告書の問い合わせは産文研まで)。

海外留学記

土屋 敏 夫



スウェーデンのリンシェーピング大学とイギリスのリーズ大学にそれぞれ6ヶ月間滞在してきました。リンシェーピング市は人口約15万人、スウェーデン第5の都市です。産業の中心はサーブの飛行機工場と大学です。車で1時間もあれば市街地を一周できるほどの小さな街ですが、街の入り口には戦闘機の模型が飾られ、街中を走るさまざまな年式のサーブが企業城下町を象徴しています。スウェーデンはヨーロッパの多くの工業国と同様に、労働力を確保するため移民を受け入れてきました。また、外国人であっても学費は無料ですので多くの海外留学生が市内に生活しています。そのため転入の手続きは簡単で、1週間もすれば通常の生活を始めることができました。

大学の朝は早く、8時頃にはほとんどのスタッフが出勤してきます。7時ごろに自宅を出て徒歩で30分ほどのオフィスに向かうのが私のスウェーデンでの出勤パターンでした。仕事は朝のコーヒータイムが終わる9時頃に始まります。ミーティングなどは9時集合となります。ただしスウェーデン時間の9時とは9時15分とのこと。きっちり15分遅れて動くので慣れるとかえってやりやすいと感じてきます。昼のランチタイムにはほとんどのスタッフがミーティングルームに集まって食事をします。大学にはカフェテリアやファストフードがありますが、物価が高いスウェーデンではランチボックスを持参の方が経済的とのこと。このランチミーティングは研究室のスタッフと交流するのに多に役立ちました。

10月になり、2番目の滞在先であるイギリスのリーズ市に移動しました。リーズ市は人口約75万人、古くは繊維産業で栄えたイングランド北部のヨークシャーに位置する大都市です。

ここでは、多くの日本人学生が学び、大学や企業から日本人研究者が派遣されていて、スウェーデンとはかなり違った雰囲気の中で研究することになりました。イギリスでは、海外から学生や研究者を積極的に迎えることそのものがビジネスになっていて、リーズ大学でも最近特に中国からの留学生が目立つようになったとのこと。大学のビジネスのもう一つの大きな柱は産学協同です。私が所属した機械工学は、ほとんど全ての研究が企業と共同で行われていました。この実践的な共同研究に参加できたことは今回の滞在中でも非常に有意義なことでした。また、今回の目的であった感性工学の研究では、リーズ大学に所属する日本人留学生たちに協力していただいて日本語文献の翻訳を行いました。この研究成果は英語版感性工学テキストブックとして公開される予定で、既に多くのリーズ大学のスタッフや日本の研究者から好評を得ています。わずか6ヶ月の滞在でしたが、研究成果を形として残せたことは良かったと感じています。今後はこれを機にさらなる交流を深めていければと考えています。

私の教育・研究

鈴木 陽 一
(政治・国際関係論)

昨年秋学期から国際関係論を担当しています。現在、人々の生活は国境を越えた繋がりを前提に成立していますが、そうした国際関係の展開は政治経済上の様々な困難な問題を生んでいます。国際関係論は、そうした現実の国際問題を理解し、さらにはより良い世界をつくりあげるべく、第一次世界大戦以降英語世界を中心に発展した学問です。講義では、理論と歴史の両面から国際関係への理解を深めていきます。国際関係を考えるアプローチとしてはどのような理論があるのか、現在の国際関係はどのような歴史的経緯を経て築き上げられてきたのか、等々です。また、数時間を割いて、これまで日本人は国際関係にどう関わってきたのか見ます。昨年講義して気づいたのは、関心が受講者によって随分と違うということでした。ある部分はある人にとっては退屈でも、ある人にとっては難解であったようです。ただ、簡単に言いつつも含意があるところもありますし、受け容れ難くても有益なところもあります。聞き流さずに考えながら受講してください。

私の専門研究分野は東南アジアの脱植民地化になります。冷戦期の歴史を英語諸国主導による新世界秩序形成の過程として再構築しています。植民地主義との連続性や、現地が外からの関与を招き入れて支えている事実にも着目して考えています。演習ではこうしたことについてもお話していきます。

教養総合講座始まる



教養総合講座が4月18日から始まった。今年度は「韓国への誘い—歴史・文化・社会・経済からのアプローチ」をテーマに、学内外から招いた13名の講師による講義が展開されている。本講座は本学における公開講座の一つで、20数名の市民の方の参加がある。

昨年はテレビドラマから韓国への関心が高まり、その熱狂ぶりが社会現象となったが、これを機に韓国について多面から学ぶことは十分意義のあることである。各講義題目は以下の通りである。「近代の日韓関係」「朝鮮王朝の国家儀礼と儒教」「若者から見た韓国」「韓国社会事情」「韓国の経済」「音楽雑誌に見る韓国の音楽事情」「韓国の都市と風水思想」「韓国をめぐる人口の国際移動」「韓国映画事情」「韓国の情報化社会」「韓国の観光」「韓国人のコミュニケーションについて」「朝鮮の近代文学について」。

毎週月曜日第5時限に開講。7月11日まで。

退任教員挨拶

市大に感謝！

内山 浩道



下関市立大学での10年間は公私両面で、学ぶ、教える、交流する、という活動の機会に大変恵まれました。

研究活動では、従来の、シンタックスや修辭法を軸とする翻訳・通訳論に改良を加えました。独特の文化背景に根ざす日本語の特質に焦点をあてた手法を導入して、対照言語学的要素を強めました。市大で毎年日本語論の講義をやったのが契機となったのです。研究の成果を国際学会で発表する機会も得ました。ハワイ大学、マカオ大学、シェフィールド大学、クィーンズランド大学などでの学会でした。

市大では「稽古事」もしました。ひとつは茶道部の連中との点前の練習。ピッツバーグ市長や青島大学学長の大学訪問の際、また、国際シンポに招待した豪州・韓国・中国からのパネリスト歓迎のために、高木宗玉先生（裏千家）のご指導の下に、献茶の栄を賜りました。

ほかに、もうひとつ、中国語の稽古もありました。これは堀内学長とふたりで。青島大学からの客員教員に、日本語との交換勉強会と銘打って。ただ何年間もやったのに初級レベルの連続だったのは交換会がいかにかかったかということの証明にはなりません。

教える活動としては、学内外で講演の機会を数多く持てたことが幸運でした。クィーンズランド大学の通訳・翻訳修士課程や東義大学校でも講演しました。またタスマニア大学（豪州）と青島大学で客員教授として数週間教鞭をとりました。

下関での成果は市大独特の環境の下で築きあげられたものであると考えます。10年間いろいろなことに挑戦する機会を得たことに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

四季色とりどりのお花

張 淑 玲



時間の経つのは矢のごしと言いますが、全くその通りに実感しています。去年桜の蕾が枝いっぱいに垂れ花が咲こうとしているところに、下関に参りました。大学の公舎に住むことになりましたので、公舎と学校との往復生活が始まりました。研究室からキャンパスの後ろの門を通過して公舎へと向かう坂道の両側に、緑に包まれた色とりどりのお花が咲き乱れていました。朝はそれを見ながら爽やかな空気を吸って元気をもらって学校に行き、そして、夜には空一面の星を仰ぎ見ながら、公舎に戻りました。その繰り返しでたまに時の経つのを忘れました。自然は正直なもので四季に応じてお花が季節を教えてください。一番好きで頭に深く刻まれているお花は、色鮮やかに大きく咲き、目立っているものではなく、真っ白で、よく注意して見ないと草むらにまぎれてしまうほど小さく咲いているものであります。市立大には日本の各地から元気はつらつとした若者たちが集まっています。一生懸命知識を求めようとしている目つきやその姿を忘れることができません。中国語教室から大きな声が流れ出て、熱心に中国語を勉強している学生が大好きでした。残念なことに私から見れば、そういう学生の割合はまだ多くはありません。ですが、みなさんの頑張りでこれからもっともっ

と生き生きとした大学になるに違いないと信じています。今後の楽しみです。

新任教員挨拶

田 中 敏 行



平成17年4月1日より千葉県市川市から下関市立大学経済学部会計学担当教官として着任いたしました。これまでキャッシュフロー計算書やブランド知的財産について主に研究してきましたが、これからも当該研究を継続

しながら著作権、特許権など法的権利を有する知的財産と会計をテーマに、またさらに研究領域を広げて研究を続けて行きたいと考えています。企業会計は企業の営業、財務、投資活動によりもたらされた情報を貨幣単位によって測定し、その結果を関係者に報告する行為であり、その取引の記録と集計に複式簿記の技術が使われていますが、昨今の産業構造の変化や会計基準の変革などに伴い企業での会計処理も会計学理論も複雑になり、かつ専門的になってきています。会計学はわが国も含めた英米の会計基準や国際会計基準、そして関連法などの比較検証や価値評価の問題、また実証研究なども重要となっています。学生諸君には私の企業での実務経験と研究の両面から具体的に説明し会計学の基礎を理解してもらう講義を心がけたいと思っています。私は山口宇部空港経由で初めて下関に入りました。その過程で左側に広がる関門海峡の雄大なパノラマに圧倒され、同時に下関の歴史と文化に触れた思いがし、また感動しました。新任の教員でわからないことばかりで、本学の教職員の皆様方に多々ご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、皆様方からご教示とご指導の程宜しくお願い申し上げて、新任のご挨拶とさせていただきます。

伊 藤 恵 美 子



この4月に着任しました伊藤です。最近、日本で一番元気だと言われている名古屋から、歴史が長く、日本史に名をとどめる名所・旧跡の多い下関に参りました。

主に、学部留学生対象の日本語、外国人特別聴講学生・外国人科目等履修生対象の日本語実習、教養教育の言語、および大学院の国際コミュニケーション研究を担当させていただいております。

これまで高等専門学校に在籍する工学系の国費留学生・マレーシア政府派遣留学生と、経済学や社会福祉などを専攻する私費の学部留学生の日本語教育、ならびに国際開発・国際協力・国際コミュニケーションを専攻する大学院留学生の日本語論文執筆補助に携わってまいりました。

日々の留学生に対する教育現場の視点から、日本語学習者の語用的能力における習得過程の解明を中心に研究を行っております。また、異文化コミュニケーションの側面から、在日留学生の異文化適応を分析することにも関心を持っております。

留学生とともに、壇ノ浦の合戦から武家政権の特徴を考えたり、長府の毛利邸で日本庭園を鑑賞したりするなど、下関の歴史と文化を採り入れつつ日本語教育を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

森 邦 恵



4月より、ミクロ経済学・現代経済分析の担当として北海道大学から本学に着任しました。研究内容は応用ミクロ経済分析、より専門的にはヘドニック・アプローチという経済学的手法の応用可能性を検証しています。

ヘドニック・アプローチとは、多種多様な製品やサービスがもつ品質に注目し、市場を通じてその品質がどのように評価されているかを計測する手法です。消費者物価指数の品質調整に利用されているのをはじめ、近年では地球環境問題の重要性から、環境の貨幣的価値を測定する評価手法の一つとしても知られるようになりました。私はこれまで、北海道の公共投資に関する分析を中心に行ってききましたが、最近では観光サービスの品質評価について関心があります。その意味で、大河ドラマの影響もあって現在一大観光ブームといわれる下関に、このタイミングで着任したことには研究の縁のようなものを感じます。

また下関は、実家のある函館と海峡に接する港町同士雰囲気がよく似ており、教職員や地域の方々の温かい人柄にも助けられ、日々の生活も快適に過ごさせていただいているところです。これから微力ながら本学のために鋭意努力する所存です。どうぞよろしくお願い致します。

クリステン・サリバン



4月より英語の教師として、本学に着任致しましたクリステン・サリバンと申します。3年前オーストラリアのクィーンズランド大学から本学へ交換留学生として来て、とても良い一年間を過ごしました。したがって、今回下

関に「来た」というよりも、「帰った」という気持ちです。

小学生の頃から日本語を勉強し始め、高校の修学旅行で日本へ来て、日本と日本語に対する関心が高まりました。また大学に入ってから、たくさんの日本人に出会い、かれらと交流したことにより、自分と日本との繋がりが更に広がりました。私はそれらの繋がりを大切にするため、「日本語がもうちょっとうまかったら、友達と話したり、日本の映画を観たり、音楽を聴いたり、本を読んだり、情報を得たり、することができるんだ」という気持ちをもって日本語を勉強してきました。このように私は体験を通して、言葉の大切さが分かってきたので、それを本学で英語を勉強している学生たちに伝えたいと思っています。

学生の皆さん、言葉を理解するには努力が必要です。しかし、それは苦勞ばかりではなく、自分の楽しみや世界を広げることだと考えて下さい。教職員の皆様方、新任の教員なので、分からないことが多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

教員著作目録(2004年4月～2005年5月)

衛藤吉則：(共著)越智貢編『岩波 応用倫理学講義 6 教育』岩波書店、2005.1

丹下栄：(共著)『ヨーロッパ中世世界の動態像—史料と理論の対話』九州大学出版会、2004.4.

丹下栄：(共著)『環境と景観の社会史』文化書房博文社、2004.11.

米田昇平：(共著)『黎明期の経済学』(『経済思想』第3巻)日本経済評論社、2005.4

年年歳歳花相似

荆 玲



時の流れは正しく川の流れるように止め処がないものです。先任の先生が桜の美に感動したのはつい先日のことですが、今年も巡ってきたこの花の季節に私は赴任しました。市大の先生の皆さんとこれから一年間お仕事をお供することができ、何よりも光栄です。又この上なく嬉しく思っています。実は市大は11年ぶりでございます。その時も同じく中国語講師として1年半いました。もうそんなに経ったのかと驚かずにいられません。当時お会いした方々も、他の大学で活躍されていたり、ずっと市大で活躍され次々に業績を積み重ねられたりと様々でいらっしゃいますが、みなさん、お顔の元気さは11年前と少しも変わっていません。古人劉希夷の「年年歳々花相似 歳々年々人不同」の詩句を思い起こします。私自身も去年の自分と違って、今年の自分は市大でお仕事をやる機会を得ました。これから先生方のように顔の若さを失わないまま中身をどんどん充実していけるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

「関門地域論」を市民に公開

本学の「関門地域論」の講義が、本年度、市民の皆さんに公開されるかたちで開講される。講義の日程は、8月26日、29日、30日の3日間(各日4時限、合計12時限)であり、いわゆる集中講義の形式で行われる。テキストなどの指定はとくにないが、その代わり、当日の講義時間中に資料が配布される。

この講義は、本学と北九州市立大学の共同研究事業である「関門地域共同研究会」の研究報告書『関門地域研究』を内容として、その執筆陣が講義を担当する。なお、この研究会は「関門地域の経済・交流発展に資する」という政策的課題を強く意識して、これまで調査研究を積み重ねてきている。

今年度の講義テーマは、同報告書の第13号(2004年)にしたがって、関門地域における「国際観光振興」と「ベンチャー企業の創出・育成」の2つである(※同報告書の全文は、本学の産業社会研究所のホームページ上で公開している。アドレスは、<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/sanbunken/kyodo.html>)。

国際観光振興に関しては、地域経済振興策としての観光誘致政策に近年注目が集まっているが、これを念頭において、とくに韓国からの観光客誘致の現状と問題点や今後の展望などについて、韓国人旅行者へのアンケート調査、韓国の若者の旅行ニーズ調査や、旅行会社へのヒアリング調査などの調査結果をもとにした講義を予定している。

また、関門地域におけるベンチャー企業の創出・育成に関しては、福祉産業とくに介護保険事業者の現状、創業支援とそれが切り開く小売業態の可能性、資金調達、産学連携などが主な話題となる。

これらのテーマ別の講義に加えて、関門地域における環境意識と環境行動についても講義が行われる予定である。

この講義の各回の講師やその内容、日時、教室などの詳細については、本学のホームページで見ることができる。

アドレスは、<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>。

大勢の市民の聴講が期待される。

教職員異動一覧

新任教職員

氏 名	担当科目	前 任	前任年月日
田中敏行 助教授	会計学原理		H.17.4.1
伊藤恵美子 助教授	日 本 語	名古屋大学	H.17.4.1
森 邦恵 助教授	ミクロ経済学	北海道大学	H.17.4.1
荊 玲 常勤嘱託講師	中 国 語	青島大学	H.17.4.1
クリステン・サリバン 常勤嘱託講師	英語実習	クィーンズランド大学	H.17.4.1
河本敏子 会計係長		教育委員会総務課	H.17.4.1
勇次亜由実 後援会書記			H.17.4.1

異動教職員

氏 名	担当科目	異 動 先	異動年月日
張 淑 玲 常勤嘱託講師	中 国 語	青島大学	H.17.4.1
程 長 泉 研究員		青島大学	H.17.4.1
山崎優子 会計係長		議会事務局	H.17.4.1

昇任教員

氏 名	職 名	昇任年月日
平山也寸志	助 教 授	H.17.4.1

退職教職員

氏 名	退 職 理 由	異動年月日
内山浩道 教 授	定 年	H.17.3.31
中島良昭 助教授	依 願	H.17.4.30
ロビン・ピーン 常勤嘱託講師	依 願	H.16.9.30
井丸えり 後援会書記	依 願	H.17.3.31

行事記録

(2005年1月～5月)

- 1月4日(火) 公務始め
 11日(火) 授業開始
 15日(土) 大学入試センター試験(～16)
 22日(土) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試
 26日(水) 秋学期補講(～28)
 28日(金) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試合格発表
 2月2日(水) 秋学期試験開始(～15)
 16日(水) 第4回就職ガイダンス
 25日(金) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
 3月7日(月) 一般選抜前期日程入試合格発表
 8日(火) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
 9日(水) 一般選抜前期日程入学手続開始(～15)
 13日(日) 大学院(二次)入試
 21日(月) 大学院研究発表会
 22日(火) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入試合格発表
 23日(水) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入学手続開始(～27)
 25日(金) 卒業式
 4月1日(金) 春季休業開始節(～7)
 8日(金) 入学式
 9日(土) オリエンテーション
 11日(月) 定期健康診断(～18)
 12日(火) 春学期授業開始
 28日(木) 留学生歓迎会
 5月9日(月) 履修確認(～10)

平成17年度年間行事予定

(2005年6月～2006年3月)

- 6月1日(水) 開学記念日
 16日(木) 第1回就職ガイダンス
 23日(木) 入試説明会・学生総会
 29日(水) 朝鮮語弁論大会

- 7月8日(金) 春学期試験時間割発表
 19日(火) 春学期補講(～22)
 23日(土) 夏季休業開始(～8/31)
 30日(土) オープンキャンパス
 9月1日(木) 春学期試験開始(～14)
 15日(木) クリーンキャンパスデー
 第2回就職ガイダンス
 17日(土) 大学院(一次)入試
 20日(火) 市民大学開講
 26日(月) 大学院(一次)入試合格発表
 30日(金) 就職入門ガイダンス
 平成17年度春学期卒業式
 10月3日(月) 秋学期授業開始
 履修届提出締切(～11)
 大学院(一次)入学手続開始(～7)
 28日(金) 大学祭(前夜祭)(～31)
 11月16日(水) 第3回就職ガイダンス
 19日(土) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試
 28日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)・編入学入試合格発表
 12月24日(土) 冬季休業開始(～1/6)
 冬季集中講義開始
 28日(水) 公務納め
 1月4日(水) 公務始め
 21日(土) 大学入試センター試験(～22)
 24日(火) 秋学期補講(～26)
 25日(水) 秋学期試験時間割発表
 28日(土) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試
 2月1日(水) 秋学期(後期)試験開始(～14)
 3日(金) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留学生)入試合格発表
 15日(水) 第4回就職ガイダンス
 25日(土) 一般選抜前期日程入試(下関・大阪)
 3月7日(火) 一般選抜前期日程入試合格発表
 8日(水) 一般選抜中期日程入試(下関・大阪・福岡)
 9日(木) 一般選抜前期日程・特別選抜(中国引揚・留学生)入学手続開始(～15)
 18日(土) 大学院(二次)入試
 19日(日) 大学院研究発表会
 22日(水) 一般選抜中期日程・大学院(二次)入試合格発表
 23日(木) 一般選抜中期日程・大学院入学手続開始(～27)
 25日(土) 卒業式

窓口より

◎図書館

1日平均利用者数

年度	平 日	土 曜	日 曜	時刻	15年度	16年度
15年度	268	87	90	19時	21	23
16年度	262	92	84	20時	16	18
				21時	10	10

平日は21時30分まで開館しています。土曜・日曜も開館しています。図書の返却期限を厳守してください。

◎学生部

後期分授業料の減免及び分納の申請受付期間は、7月1日から9月10日です。